

多くの新入生を迎えて

2018年度も国際交流いつぱいの キャンパスに

国際交流センター長 村田信行

今年度は学部にも新学科（文化学科）も開設され、より多くの学生でキャンパスは活気にあふれています。国際交流センターでは、引き続き充実した各プログラムを維持し、派遣・受入ともに万全を期していきます。

派遣事業では、一学期を海外の学校で過ごすセメスター留学と、夏休み（オーストラリア、台湾、韓国、モンゴル）、春休み（ハワイ、カンボジア）の海外研修6本が中心です。

派遣のセメスター留学は秋学期に4名を予定しています。海外研修プログラムは、異文化間能力（態度・知識・スキル）を養成することを目的とし、現地の人と積極的に関わる態度を身につけ、各プログラムで設定された問いの答えを探しながら現地で過ごすように設計されています。事前研修により訪問先の知識や海外渡航の心構えを得て、事後研修のレポートや発表により学びを深めます。こうして各プログラムは、単なる海外経験

ではなく、「問いを持った旅、学びを創る旅」となります。

受入事業としては、姉妹大学である韓国の漢陽（ハニャン）女子大学から、春学期3名、秋学期4名の交換留学生を受け入れます。彼女たちは清泉生とともに一学期間学び単位取得をめざし、さまざまな交流を経験します。また6月に漢陽女子大学から、2月に学術協定校の国立高雄科技大学（台湾）から、短期の訪問団を受け入れます。ほかに、昨年と同じく5月に、長野県の姉妹県である米国ミズーリ州のミズーリ大学コロンビア校の学生を2日間受け入れ、またインターナショナルカフェでも数回外国のお客様をお迎えする機会があります。

これら各国のプログラムはいずれも、清泉生が直接外国の方々とともに行動し、経験を共有できます。好奇心あふれる学生たちが積極的に交流し、視野を広げる機会にしてほしいと願っています。

受入 3年ぶりの編入・留学生！

今春、3年ぶりに編入・留学生2名を迎え入れました。姉妹校である韓国・漢陽女子大学を卒業した、キム・ミンジュさんとオ・ヒェリョンさんです。

さっそく歓迎会の計画を立て、「何が食べたい？」と聞くと、「焼肉！」。さすがカルビとチキンの国です。異国の地・長野で、これから2年間過ごすことになりましたが、少しずつ生活になじんでもらい（日本食は辛さが物足りないようですが）、清泉を、長野を、もっと好きになってもらえればうれしいです。

ところで、歓迎会の中で、本学職員が彼女たちを熱心に高校野球観戦に誘っていました。高校野球は今が真つ盛り！果たして、日本の高校野球を楽しんでくれるでしょうか！



キム・ミンジュさん



オ・ヒェリョンさん

派遣 新しい自分を発見！

〈セメスター留学レポート〉

国際コミュニケーション科2年

長田彩希

半年間のオーストラリア留学経験は、語学の勉強だけではなく、考え方や視野を変えました。いろいろな国民性や文化、宗教があることを知り、これまで当たり前前だと思っていたことも当たり前ではなくなり、さまざまな角度からたたくさんの意見があることに気づか



されました。とくに一番成長したと実感するのは、生活していく力です。最初は友達も少なく、頼れる人がいない中で、初めての一人暮らし（しかも海外生活）が心配でした。食事、洗濯、掃除、整理整頓、すべてをこなすことは大変でしたが、時間がたつにつれて当たり前の習慣になっていくと気づいた時に、自立できていくのだと実感しました。あらためて自分の性格を知り、自分を見直していきながら、今後も新しい発見をしていきます。（17年9月〜18年2月）

派遣 初めての海外で…

〈カンボジア文化研修レポート〉

心理コミュニケーション学科3年

中矢有紀

今まで海外に行ったことがなく、自身が触れたり見たりしたことのない異文化の中で短期間でも生活し、その地に住んでいる人と触れ合うことで、新しい世界に目を向けたいと思いつきました。

この研修から学んだことは、一つは英語が共通語であること、二つめは意外と海外に出るのに不安はいらないということだ。仲間が一緒だったということも大



きいが、とても充実した時間を過ごすことができ、そのため、自分の中で海外へ行くことへのハードルがグッと低くなったように感じる。日本に戻ってすぐに、もっといろいろな国へ行ってみたいと思えたのは自分でも驚きだった。（18年2月21〜27日）